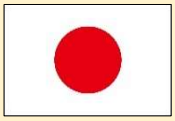
工学部国際連携サマープログラム 2026　無事終了

18 回目を迎えた 2026 年の工学部国際連携サマープログラムは、8 月 23日から 8 月 30 日までマレーシアにある大学間協定校 マラヤ大学の科学予備コース（PASUM）を会場に開催されました。期間中は、工学部の学生 10 名が PASUM の学生 10 名とともにさまざまな異文化体験をとおし、多くの学びを得ました。



今年度は「日本とマレーシアにおける循環型経済の取り組み：廃棄物管理、リサイクル技術、持続可能な製造というテーマの下、両校から各 10 名がバディを組んで活動しました。 テーマに関する講義、 リサイクル企業による学習活動への参加や日系企業の環境保全に関する取り組み等を学んだ後、最終日にそれぞれの国の現状・今後の課題等を英語で発表しました。また、期間中はマラヤ大学の工学系研究室も見学しました。

学生交流・異文化理解という観点から、双方の国の文化紹介も行い、衣食住・スポーツ・趣味に関する発表を皆で楽しみました。工学部生は全員初めてのマレーシアだったため、見るもの聞くもの全てが驚くことばかりだったようです。また、キャンパス内には日本への留学を目標に日本語を学ぶ特別コースもあり、習い始めて間もない日本語を使っての生徒さんとの交流もとても楽しい時間となりました。
そのほかにも、JETRO クアラルンプールを訪問し、マレーシアの産業・日本との関係等について学ぶとともに、グローバルな職場で活躍する方々のキャリアパスについてもお話を伺う機会を得ました。

短い時間でしたが、様々な体験をとおし、学生の姿には確かな成長の跡が見えたように感じました。
実施にあたり、一般社団法人米沢工業会、山形大学工学部後援会をはじめ、多数の皆様にご支援・ご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。